

令和元年7月伊勢原市教育委員会定例会議事録

1 開催日時

令和元年7月26日（金）午前9時30分から11時24分

2 開催場所

市役所 3階 全員協議会室

3 教育長及び委員

教育長	鍛代 英雄
委員（教育長職務代理者）	菅原 順子
委員	渡辺 正美
委員	永井 武義
委員	重田 恵美子

4 説明のために出席した職員

教育部長	谷亀 博久
学校教育担当部長	石渡 誠一
参事（兼）教育総務課長	古清水 千多歌
参事（兼）歴史文化担当課長	立花 実
参事（兼）教育センター所長	橋口 龍郎
学校教育課長	守屋 康弘
教育指導課長	今井 仁吾
社会教育課長	小谷 裕二
図書館・子ども科学館長	倉橋 一夫
教育指導課生徒指導係長	嶋本 信之
教育指導課副主幹	西野 厚志
教育指導課主任主事	吉田 洋久

5 会議書記

教育総務課総務係長	大澤 貴之
-----------	-------

6 傍聴人

17名

7 議事日程

日程第1 前回議事録の承認

日程第2 教育長報告

日程第3 議案第19号 令和2年度伊勢原市立小学校使用教科用図書の採  
択について

- 日程第4 議案第20号 令和2年度伊勢原市立中学校使用教科用図書「特別の教科 道徳」を除く)の採択について
- 日程第5 議案第21号 令和2年度伊勢原市立中学校「特別の教科 道徳」使用教科用図書の採択について
- 日程第6 議案第22号 令和2年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について

----- ○ -----

午前9時30分 開会

○教育長【鍛代英雄】 定刻となりました。ただいまから教育委員会議を開催いたします。

----- ○ -----

日程第1 前回議事録の承認

○教育長【鍛代英雄】 日程第1、「前回議事録の承認」について、お願いいたします。

○委員及び委員全員 承認

----- ○ -----

日程第2 教育長報告

○教育長【鍛代英雄】 日程第2「教育長報告」でございます。教科用図書採択に係る要望等について報告をいたします。

今年度行います使用教科書図書の採択に当たり、事前に2件の要望等が寄せられておりますので、報告いたします。資料はございません。

1件目は、日本出版労働組合連合会から送付されました、3月19日付の「2019年度における公正な教科書採択のために（要望書）」。2件目は、神奈川労働弁護団、社会文化法律センター神奈川支部、青年法律家協会弁護士学者合同部会神奈川支部、自由法曹団神奈川支部の4者連名で送付されました、6月21日付の「育鵬社の公民教科書に関する意見書」でございます。

教育委員の皆様には、既に2件の要望書等の写しとあわせ、教科書展示会等でいただきましたご意見等をまとめたものを配付いたしておりますが、教科書の採択権者であります教育委員の皆様は、さまざまな視点から教科書について研究・検討を行い、公正かつ適正な採択を行うこととされておりますので、採択に当たり、改めて報告をいたしました。

この件につきまして、ご質問やご意見等がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは次に移らせていただきます。

----- ○ -----

日程第3 議案第19号 令和2年度伊勢原市立小学校使用教科用  
図書の採択について

○教育長【鍛代英雄】 日程第3、議案第19号「令和2年度伊勢原市立小学校使用教科用図書の採択について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【石渡誠一】 議案書の1ページをごらんください。本議案第19号につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項及び第14条、同法施行令第15条の規定に基づく、令和2年度伊勢原市立小学校において使用する教科用図書の採択について、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第10号の規定により提案するものです。

提案理由といたしましては、令和2年度伊勢原市立小学校において使用する教科用図書を採択する必要があるためでございます。

現在、小学校で使用しております教科用図書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同法施行令に基づき、平成26年度の採択により平成27年度から平成30年度までの4年間、平成30年度の採択により令和元年度の1年間、同一のものを使用しております。

その使用期間が終了しますことから、令和2年度から令和5年度までの4年間使用いたします教科用図書をここで改めて採択をしていただくということです。

また、教科用図書の採択につきましては、文部科学省から出されております教科用図書目録に登載された教科書のうちから採択することになっております。

おめくりいただきまして2ページから順に、発行者・発行数一覧、及び文部科学省から出された教科書目録を掲載しております。教育委員の皆様によるご審議をお願い申し上げます。

以上でございます。

○教育長【鍛代英雄】 提案説明が終わりました。

審議、採決に入る前に申し上げます。本日の採択に先立ち、伊勢原市教科用図書採択検討委員会を設置し、採択に係る必要な事項の調査研究及び協議をしていただいております。

先日開催されました検討委員会の会議に、教育委員の皆様全員、そして私がオブザーバーとして出席し、調査研究の内容を確認するとともに、検討結果を書面でいただいております。

よって、委員の皆様は、検討委員会での検討結果について、既に把握されていらっしゃると思いますので、改めてこの場では検討委員会での検討結果の報告はいたしませんので、ご了承ください。

次に、審議、採決の方法でございますが、まず教育委員の皆さんから順番にご

意見をいただき、ご意見が出そろったところで採決に入りたいと思います。

採決はお1人1回の挙手とし、過半数をもって決することとし、全員の挙手が終わった時点で終了といたします。よろしいでしょうか。

それでは、これから種目ごとに審議、採決を行ってまいります。

まず国語でございますが、4者から発行されております。菅原委員からご意見を申し上げます。

○委員【菅原順子】 私は、光村図書出版、続いて東京書籍、教育出版などがよいと思いました。光村図書出版と教育出版は、読みに困難を抱える児童にも読みやすい、ユニバーサルデザインフォントが使われています。また、両者は考察に4段階の流れがあり、表面的な情報収集から深い理解へと学びが深まるようになっていきます。

東京書籍は、巻末の漢字が大変充実していると思いました。

扱われている題材に関しては、説明文についてはどの教科書も甲乙つけがたいのですが、物語に関しては、光村図書出版は想像力を養うことに大きな力点を置いていると感じました。また、低学年では、音読劇によって想像した登場人物の感情を表現させたり、3・4年生は分ける、比べる、5・6年生はつなげる、広げるを意識させて学習を進めさせたりなど、発達段階に応じた取り組み方を提供していると思えます。

以上から、私は光村図書出版が最もよいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 続いて渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 国語は、どの会社も読む、話す、聞く、書くことの学びを深めるための工夫はさまざまにされております。

光村図書出版が、言語活動の児童に関する工夫もされ、また、知識や感性を高め、広めるような本の紹介や、季節の言葉、学習を広げようというような手だてが講じることができる部分がありました。取り扱っている作品も、童話や、感動を生むような名作、それから科学的事象を題材にした作品、古典、芸能なども豊富にあり、光村図書出版がよろしいのではないかと思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 続いて永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 申し上げるまでもなく、国語は全ての教科の根幹であり、日常生活において伝え合う力を高めるとともに、話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと、能力向上、言語活動の中心となる教科です。英語の教科化や、オリンピック・パラリンピックにより、さらなる国際化、グローバル化が必須となる中で、日本人が大切にしてきた文字の文化、書写、言葉の持つ意味や由来、語彙、敬語、音、響き、リズム、言葉の変化といったものを、主体的・対話的で深い学びの中で、情緒豊かな表現力を学んでほしいと思えます。

そういった視点において、どの発行者もすぐれ、内容や構成、分量、装丁、表記など、多少の違いはあっても充実していると感じています。

その中であって、光村図書出版は、1冊の重量が比較的少ない中で、「この本読もう」、「本の世界を広げよう」、「本は友達」、「この本おすすめします」

など、読書活動についても充実していて、本に親しめるような工夫が感じられ、読書生活をするための基礎が築けると思いました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は、光村図書出版、教育出版がよいと思いました。教育出版は、目次も青字で記載され、一目でポイントがわかり、何を学ぶかがわかりやすくできています。また、課題には、「ここが大事」の四角の枠があり、ポイントが記載されています。下の段には、青い文字、文中に出てくる植物やものの説明的な図がありますので、知識を一層向上させることができるのではないかと思います。また、巻末には「本を読もう」コーナーがカラーで用意されていて、興味をそそる工夫もなされています。下段にも工夫がかなりされているので、物語でも掘り下げて考えさせる手法が見られます。

ほかの教科書も本当に甲乙つけがたいのですが、光村図書出版はほかの教科との関連性が基礎的な教科としてわかりやすくなっていると思えます。そして、ことわざや短歌、かるた、民話、昔話など、古典なども幅広く取り入れられており、2年の上では『ミリーのすてきなぼうし』などでは、いろいろとミステリーに変化するストーリーで、児童の想像力を豊かに育むことが期待されています。そして、3年の上では、話す、聞くのコミュニケーション能力を高める工夫、人に何かを伝える案内状などの書き方、物語を読み、意見交換のできるような学習方法、はっきりと自分の意見を言う訓練、そして巻末の「学習を広げよう」では、目次つきでわかりやすくなっています。また、ローマ字や図書の紹介がたくさんございます。5年の末尾には、手話や点字などでもふれられるようになっており、誰もがそういう文字、言葉と触れる機会があることがよいのではないかと思います。

よって、光村図書出版が私は一番よいと思えます。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に私から意見を申し上げます。国語科につきましては、学習指導要領におきまして、言語活動を通じて、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者の教科書は、どれも工夫がされておりますが、中でも光村図書出版の教科書は、文学的文章は内容、表現、言葉のリズム等を通じてさまざまな文体に触れ、豊かな感性を育む作品が取り入れられています。また、漢字の学習で具体的な設定がされていることで、実際の記事や表記の中で、言葉として活用し、定着できるようになっています。

さらに、学習の進め方がわかりやすく示され、見通しを持って学習することができるなどの工夫もされておりますので、光村図書出版がよいと考えます。

これで全員が意見を述べました。ほかにご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。ないようですので採決に入らせていただきます。

国語の教科用図書につきましては、4つの発行者から選ぶこととなります。こ

れから発行者名を順に申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

学校図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手5名。

全員の挙手が終わりました。光村図書出版5名でございました。

よって、国語で使用する教科用図書は、光村図書出版のものと決定いたしました。

引き続きまして書写でございしますが、5者から発行されております。

それでは渡辺委員から、意見をお願いします。

○委員【渡辺正美】 書写に関しては、各者とも、学年に応じた硬筆や毛筆の指導というものが学習指導要領に基づいて組み立てられていると感じました。

ただ、子どもたちの現状で、書く姿勢、読む姿勢等、学習の姿勢等を考えますと、やはり一番基本的な学習の姿勢は、何度も何度も繰り返しながら行っていくということが必要かと思えます。東京書籍、光村図書出版が、そういう意味では、基礎的、基本的な対応が繰り返し扱われていると感じました。

ただ、書写の指導をしていくに当たっては、国語の指導と全く無関係ではなく、一定の関連性を持ちながら進めていくことも大切かなと思えます。国語の教科書と同じ教科書のほうが、連携、活用がしやすいのではないかと考えて、光村図書出版がよろしいのではないかと思いました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 続いて永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 書写につきましては、光村図書出版、続いて東京書籍、教育出版がよいと私は思いました。

私は仕事柄、筆を使わない日はありませんが、毛筆は用具、姿勢、持ち方が重要だと思います。そして、次回に使用するために片づけも大切です。そういった意味では、全者とも3年生から6年生までの毛筆には全て、基本が忠実に示されていました。

また、各者とも、毛筆に入る前の1・2年生で水書用筆が添付され、なれさせる工夫がよいと感じています。

東京書籍は、俳句、百人一首、竹取物語、奥の細道、枕草子、漢詩・漢文。教育出版では俳句・短歌、竹取物語、枕草子、かるたと伝統文化に照らした配慮が十分になされていました。

光村図書出版の3年では、始筆、走筆、終筆を確認するためのシールが添付され、毛筆導入期に基本を学ばせる工夫が凝らされていました。

東京出版の「文字のいずみ」、教育出版の「知りたい」、光村図書出版の「もっと知りたい」は、文字の持つ歴史や文化、特性、広がり学ばせる工夫が感じられます。

国語との連動教材が2つ設定されている光村図書出版は、先生も活用しやすい

のではないかと感じています。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は、光村図書出版、東京書籍がよいと思いました。光村図書出版は、実例が大変多く、現在ではパソコンなどで文字を打つ時代ですが、手紙や封書、あるいはレポートなどの書き方まで、親切丁寧に実例を用いて教えてくれています。

こういうものはだんだん忘れられていくところがありますが、実際に必要となる場面がこれからもあると思います。光村図書出版の教科書を使うことによって、少しでも児童に常識的なものが身につけばいいと思っています。

また、筆書きのほうは、実寸大のお手本つきですので、実際に自分の家で書こうとしたときも、大変書きやすいと思います。そういう意味でも、光村図書出版がいいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は光村図書出版か東京書籍がよいと思いました。どちらも1年生の最初に、鉛筆の持ち方、手の置き方が実物大で示されていて、先生には指導しやすく、子どもにも理解しやすいのではないかと思います。毛筆でも、筆を擬人化した、親しみやすいキャラクターや合い言葉で、筆の置き方、運び方、力の入れ方がわかりやすく、楽しく説明されています。

甲乙つけがたいのですが、国語の教科書の文言が手本になっている硬筆の課題も幾つかありますので、国語の教科書と同じ光村図書出版がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 それでは最後に、私から意見を申し上げます。各発行者のうち、特に光村図書出版の教科書は、国語の教科書と連動できる教材が設定されています。加えて、他の発行者の教科書の中にも取り入れられているものがありますが、鉛筆を持った手と紙を押さえる手のイラストが大きく描かれており、筆先の動きも絵や図でわかりやすくあらわされています。また、筆記具を選び、これまでに学習したことを生かして書くという学習の流れが示されていて、他の教科と結びつけることができるようになっていきますので、光村図書出版の教科書がよいと考えます。

これで全員意見を述べました。ほかにご意見やご質問等ございますでしょうか。

ないようですので、採決に入らせていただきます。書写の教科用図書につきましては5つの発行者から選ぶこととなります。これから発行者名を順に申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

学校図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手5名。

全員の挙手が終わりました。光村図書出版5名でございました。よって、書写

で使用する教科用図書は光村図書出版のものと決定いたしました。

引き続きまして、社会でございますが、3者から発行されております。

それでは永井委員から、ご意見をお願いします。

○委員【永井武義】 中学年では、身近な市内、県内のことが多いので、神奈川県の記事が多い教育出版は関心が強まると感じられます。

ランドセルの重量化への対応が図られているのは、東京出版の高学年の分冊化だと思います。

索引は、日本文教出版が豊富な印象がありました。

内容や構成はほぼ同じような印象で捉えましたが、6年生の歴史では、東京書籍と教育出版が歴史事象を並べた従来型の歴史の教科書に近いのに対し、日本文教出版は対話を重視する構成でつくられていて、主体的・対話的で深い学びへの工夫が多いに凝らされていると思います。また、本文以外の学習資料をもとに話し合いができる構成となっています。

ヒストリーはストーリーと語源が同じとも言われますが、ストーリーで学ぶと、暗記と異なり、知識も身につけやすいと思います。そういった点において、私は日本文教出版がよいと感じています。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 確かに教育出版というのは、関東地方を中心に上げられて、身近でいいと思ったのですが、私は東京書籍がよいと思います。

というのは、全体を通して巻末には索引はもちろん、巻頭に何を学ぶのかすぐわかる目次、そして6年の歴史の巻末の年表は、上部に日本史が、下部には世界史が、比較しやすく、見やすく丁寧なつくりになっているところです。そして、3年から6年の地域的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや働く人々の生活、歴史とその時代その時代の人々の生活を系統立てて学ぶことができる。そして5年では、いろいろな伝統を守る産業、世界でトップの技術を誇るものづくりの紹介をしながら、自然災害、復興という現実の生活環境の中で、情報化社会に視点を向けて、メディアと連携しながら環境を考え、よりよい社会を形成するために、自分たちに何ができるかを投げかけるところもよいと思います。そして、自主的に考える学習は好感が持てます。「つかむ」というところでは、何について、どのように学ぶのか、そして「ことば」では、その言葉の意味を調べ、より学習したことを基に知識を広げていく、「学習問題」では、問題提起して考えさせる工夫がなされています。

そういう意味でも、東京書籍がよいと思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は教育出版が最もよいと思いました。社会の教科書の中では唯一、読みやすいユニバーサルデザインフォントが使われています。

内容も、3年生ではかなりの部分が横浜市、4年では相模原市、藤沢市、箱根



寄木細工など、伊勢原市の子どもたちにとって身近で親しみやすい地域が取り上げられています。

ほとんどの単元が、左のページの「この時間の問い」でスタートし、右ページの最後の「次につなげよう」で締めくくられている構成となっており、子どもたちが問題意識を持ち、モチベーションを維持して先へと学んでいくための工夫がなされていると思います。

6年の歴史分野も、昔話ではなく、身近な選挙をテーマにして、子どもたちが今生きている現在を過去と対比させ、過去から現在への流れを考えるとということからスタートしているところが斬新であると思いました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 各者とも、絵図、それから写真等を豊富に使っております。それから、それぞれの授業の中で、文字に対する、または事象に対する解説等は、どこの出版者も内容を理解する上で大事なところは、それぞれ掲げられていると思いました。

ただ、授業を進めるに当たって、教育出版が1時限を、ぽんと教科書を広げると、見開きの2ページで進められるということ。さらに、今何をここで学ぶのかという学習の進め方がわかりやすく明示されているということ。このような点がいいのかなと思います。

そして何よりも、各教科書会社は日本全国の各地の題材を扱っているのですが、特に教育出版は神奈川を題材にしたり、横浜を題材にしたり、さらに伊勢原の日向の浄水場のあたりのことが出ていたり、身近な部分が教材に登場しているということで、教育出版がいいのではないかと思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に、私から意見を申し上げます。社会科につきましては、学習指導要領におきまして、課題を追及したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、教育出版の教科書は、巻頭に学習の流れを示した社会科の学習の進め方が提示され、各単元がこれに基づいて構成されていることに加えて、問題解決的な学習を見通しを持って進められるよう、各単元が「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」で構成されています。

また、神奈川県について多く取り上げられておりまして、児童が自分事として捉えて学習することができると思いますので、教育出版の教科書がよいと考えます。

これで全員意見を述べましたが、ほかにご意見やご質問がございますでしょうか。

よろしいでしょうか。ないようですので、採決に入らせていただきます。

社会の教科用図書につきましては、3つの発行者から選ぶこととなります。この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手3名。

日本文教出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍1名、教育出版3名、日本文教出版1名でございました。よって、社会で使用する教科用図書は、教育出版のものと決定いたしました。

続きまして、地図でございますが、2者から発行されております。

それでは重田委員から、ご意見を申し上げます。

○委員【重田恵美子】 帝国書院は、さすが地図の王道と思えるぐらい詳しく書き込みがされていると思いますが、線が濃過ぎて読みづらい、見づらいのではないかと懸念があります。

それに対し東京書籍は、楽しく見られるような工夫がなされていて、色彩も見やすく、世界との比較もしやすいのではないかと感じました。よって、東京書籍がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

続きまして菅原委員、申し上げます。

○委員【菅原順子】 私は帝国書院がよいと思いました。巻末に、表面に都道府県の区分が入った日本地図、裏面に国名が入った世界地図が折り込みで入っており、活用しやすいと思います。また、初めのほうに、沖縄県を含めた日本全図が載っており、日本列島の長さ、台湾や大陸との距離感がつかみやすいと思います。各地図に、日本の中で、あるいは世界の中でどの地域の地図なのかが示されているのもわかりやすいと思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 続きまして渡辺委員、申し上げます。

○委員【渡辺正美】 東京書籍も帝国書院も、地図帳の使い方、それから世界の国々や日本の国々、それから地図の中での土地利用などのさまざまなルールに基づいた色分けがされていると思います。

我々が小学校の頃は、世界の国々を相当詳しく授業で学んだのですが、現在は世界の国々の中の幾つかの国名を重点的に学習したりするような内容になっております。そのような視点から、小学校の教科書としての地図は、我々がさまざまな形で現在、大人として活用しているような内容の地図帳とは、多少異なるのかなと思います。

そういう意味で、帝国書院は、そのような学習内容に合わせて、地形図もあるのですが、世界の国というものははっきりわかりやすく明記したページなどもより多く含まれている内容になっております。

それから、地図の色合いの見やすさ、資料編での日本の自然や世界とのかかわりの産業面でのつながりなども、かなり詳しくグラフ化されて出ていると感じました。私は帝国書院がよいかなと思いました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 地図帳は、教科書を補う貴重な資料ですが、両者とも甲乙つけがたく、とても見やすいと思っております。

東京書籍は写真が多い印象です。帝国書院にある「二次元コード」、「地図マスターへの道」は、発展的な学習への広がり工夫が感じられます。また、世界の陸地の面積、海洋の割合と面積、そして択捉島の地図に示された沖縄の図は、比較として興味深い工夫が施されていると思います。そういった意味で、帝国書院がよいのではないかと私は思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に、私から意見を申し上げます。各発行者のうち、帝国書院の地図は、比較・関連させて考察できるように、高い山や長い川などの模式図が地図とあわせて提示されていることに加えて、地球上でどこに位置するのか把握しやすいように、縮小された地球儀が記載されています。また「地図マスターへの道」のページは、児童が興味・関心を持ちやすく、地図への苦手意識が減ると思いますので、帝国書院の地図がよいと考えます。

これで全員意見を述べました。ほかにご意見、ご質問等はございますでしょうか。

ないようですので、採決に入らせていただきます。地図の教科用図書につきましては、2つの発行者から選ぶこととなります。これから発行者名を順に申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

帝国書院がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手4名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍1名、帝国書院4名でございました。よって、地図で使用する教科用図書は、帝国書院のものと決定いたしました。

続きまして、算数でございますが、6者から発行されております。

それでは菅原委員から、ご意見をお願いします。

○委員【菅原順子】 私は教育出版が最もよいと思えました。九九、時計の読み方、1つ分または幾つ分を求める2種類の割り算、大きい数の数え方、概数、割合などの重要單元ごとに、各教科書を比較してみると、教育出版は、言葉と図などの視覚的情報の双方を用いて、わかりやすく、過不足なく説明していると思えました。

また、1年生の数の導入で、言葉の文字数を数えさせたり、億の位の「億」や、直径の「径」の字の成り立ちや意味が、「言葉の広場」というコーナーで説明されていたりなど、身近な言葉や生活と関連づけた学習ができるように工夫されていると思えました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 どの教科書も、学習の進め方、教科書の使い方、それからノートの書き方などが説明され、示されております。

教育出版が、「学びの手引き」で用具の使用法などを解説したり、それぞれの単元の初めに、興味・関心が湧くような、非常に身近な内容の設問が提示されたりしております。それから、学習上の理解の筋道がわかりやすく、それぞれの部分で示されていると感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

では永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 保護者からは、ランドセルの重量化の指摘もありますが、比較的重量のある算数の教科書を、学年で上下に分けて分冊化した工夫が、多くの発行者で見られました。検討委員会で報告がありましたが、大日本図書、教育出版、新興出版社啓林館は、ノートのつくり方が示されています。

教育出版では「学びの手引き」で、2年上では数の線の仕組み、2年下ではテープ図、3年上では線分図、3年下から6年までは数直線の書き方が繰り返し掲載されていて、基本の定着に配慮が見られます。また、毎時間確かめがあり、スパイラル、反復学習ができるのはよいと思います。学習の進みぐあいに合わせて取り組めるステップアップ算数も充実していると思います。

○教育長【鍛代英雄】 それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は教育出版がいいと思います。学びの原点である小学校教育で自信が持てる、できたという感動を感じるための工夫がなされていると思います。大きさや重さもちょうどいいのではないかと思います。表現の仕方が明るく、楽しく学習ができる工夫がなされていると思います。スタートカリキュラムから学び合い、互いに問題提起することで、理解力、表現力を高めることができると思います。理解への扉を開いて、解くことへの興味が高まり、ノート指導というところでは、思考力、表現力を高めることができると思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に私から意見を申し上げます。算数科につきましては、学習指導要領におきまして、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指すとしております。

各発行者のうち、教育出版の教科書は、問題発見、解決の流れが、「はてな」、「なるほど」、「だったら」の吹き出しで示されていることに加えて、「学んだことを使おう」では、学習したことを活用して、日常の場面や算数の問題を解決する機会が設けられています。また、「きっかけ」や「学んだことを使おう」、そして、「算数を使って考えよう」で、数学的な活動を通して算数の学習に取り組めるよう工夫されておりますので、教育出版の教科書がよいと考えます。

これで全員意見を述べました。ほかに、ご質問やご意見等ございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。ないようですので、採決に入らせていただきます。算数

の教科用図書につきましては、6つの発行者から選ぶことになります。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

学校図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手5名。

全員の挙手が終わりました。教育出版5名でございました。よって、算数で使用する教科用図書は、教育出版のものと決定いたしました。

続きまして、理科でございますが、6者から発行されております。

それでは渡辺委員から、ご意見を申し上げます。

○委員【渡辺正美】 各者とも、写真・絵図を豊富に使い、理科の教科書、実験または観察を行いやすく、学習を進めやすくする工夫がされていると思います。

そういう中で新興出版者啓林館は、学習活動の流れに沿って、それぞれの場面での学習の狙いがわかりやすく示されているということ、また、それぞれの場面での細かな安全対応の配慮もされていると感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 「どうして」、「なぜ」という探求心、科学的な思考能力を観察や実験を通して育む教科です。全者とも、観察1・2、実験1・2と繰り返し反復学習がなされています。ノートの手書き方や観察記録は、教育出版では巻頭に、東京書籍、大日本図書、学校図書では巻末に記され、工夫が施されています。

新興出版社啓林館では、各単元の始まりでは見開きが多く、学習の目当てが記され、「思い出してみよう」、「考えてみよう」と思考能力を育む始まりとなっています。各単元が問題から入り、観察あるいは実験、そして結果から考え、まとめる構成となっていて、段階的に予想や計画が加わっています。また、「つなげよう」で発展的な学習となっています。さらには、「まとめノート」で振り返りができるようになっている構成で、私は啓林館がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は、新興出版社啓林館と教育出版がよいと思いました。新興出版社啓林館の場合は、人体の筋肉や関節など、体のつくりと運動が連動して理解できるような工夫がなされています。また、人間とメダカの成長を比較しながら学習できるというのも、興味もありました。

しかし、教育出版は、同じく命の誕生や、人間の体の仕組みは実寸大で理解しやすくできていまして、また実験も、自分でできそうなものもありました。イラストも興味が湧くようなかわいらしいものがあります。子どもたちが自然に読みたい、理解したいと入っていけるといいところだと思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は大日本図書、新興出版社啓林館、教育出版がいいと思いました。問題提起及びその解明のための実験や観察の手順が主に右ページに書かれ、めくった次のページにその結果、結論が書かれているという一定の構成になっていて、理科の学び方の枠組みがわかりやすく提示されていると思います。

中でも大日本図書は、結果と結論の間に、3・4年生では「考えよう」、5・6年生では「考察」という項目が入っており、ここが結果からいえることを話し合う場となっています。話し合い活動の場が設定されている上に、実験・観察、結果、考察、結論という流れが、中学・高校での理科学習の枠組みにつながるという点で、私は大日本図書が最もよいと考えました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に、私から意見を申し上げます。理科につきましては、学習指導要領におきまして、自然に親しみ、見通しを持って観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、新興出版社啓林館の教科書は、単元導入での「はじめに考えてみよう」と同じ問いかけが、単元末に「もう一度考えてみよう」として設けられています。単元の終わりには「まとめノート」があり、学習の内容を振り返ることができるようになっています。また、単元内に加えて巻末に、発達の段階に応じた観察や実験に使う器具の使い方や注意点が示されています。巻末には、ノートのまとめ方に加え、伝えるときのまとめ方も例示されておりますので、新興出版社啓林館の教科書がよいと考えます。

これで全員意見を述べ終わりました。ほかにご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。ないようですので、採決に入らせていただきます。理科の教科用図書につきましては、6つの発行者から選ぶこととなります。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

学校図書がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

信州教育出版社がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

新興出版社啓林館がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

全員の挙手が終わりました。大日本図書1名、教育出版1名、新興出版社啓林館3名でございました。よって、理科で使用する教科用図書は、新興出版社啓林館のものと決定いたしました。

引き続きまして生活でございまして、8者から発行されております。

それでは永井委員から、ご意見をお願いします。

○委員【永井武義】 生活は、幼稚園や保育園からの接続の教科ともいえ、学校にいち早くなれるとともに、生活習慣を身につけて、仲よく楽しい学校生活を送れるようになることが重要だと思います。

その中で、集団生活の決まりや、身の安全を守るわけですが、どの発行者もさまざまな学習や体験活動が記されています。1年生の冒頭は、学校の探検が記されていますが、東京書籍、教育出版、光村図書出版、新興出版社啓林館、日本文教出版は、ここまでに二、三十ページを割き、内容が丁寧だと感じました。集団行動がとれない、人の話を聞けない、座ってられないなど、小1プロブレムへの課題に対応するためにも重要だと思います。なおかつ、東京書籍は「つたえよう」、教育出版は「おしえたい・話そう」、新興出版社啓林館は「しょうかいしよう」、日本文教出版は「はなそう」と記され、早い段階でのみんなへの発表があり、表現力を高める配慮がされていました。

四季折々の自然に親しむといった内容では、東京書籍は「ポケット図鑑」を含め、花や昆虫、注意する虫の写真がわかりやすく、教育出版は巻末での本の紹介が見られました。

中学年への広がりについては、どの発行者も記されていますが、東京書籍と教育出版は、具体的に理科や社会、外国語活動、総合などへのつながりがあることを示しています。

ランドセルの重量問題を考慮すると、低学年向けには日本文教出版や教育出版は軽くてよいと思います。非常に甲乙つけがたい中ですが、その中でも、私は東京書籍を選びたいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は教育出版がいいと思っております。何を学ぶのかということでは「きづく」・「じぶんでできる」、そしてどのように学ぶかということでは「かんがえる」・「つたえる」、何ができるようになるかということでは「ちょうせんする」、「じしんをもつ」、その6つの構成から、実際の学校生活に近いイラストで、明るく安心して楽しめるように掲載され、生活科で学習したことがほかの教科でも応用されることが多く、楽しみながらしっかり学習できることが大切だと思っています。

ユニバーサルデザインにより、児童にとって学びやすくなっており、また避難場所のマークなども記載され、ふだんから、いざというときのための意識を持つという工夫もされています。そういう意味でも、教育出版がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私も教育出版が最もよいと思いました。小学校低学年の教科書にふさわしく、絵が大きく、文字の大きさや情報量が適切で、課題が焦点化されています。植物や昆虫の観察の課題では、対象そのものを図鑑的に詳しく描写するというよりも、さわる、比べる、予想する、結びつけるといった、観察する上でのヒントに重点が置かれています。

巻末の「学びのポケット」では、今この場所を原点にして、横方向の座標は「前」から「これから」という時間軸、縦方向の座標は「アリの目」から「とりの目」へという、視点のシフトの軸が示されていて、子どもたちが今後、生活を学習していく上で、さまざまな場面で活用できるすぐれたパラダイムとなると思います。

以上から、私は教育出版の教科書が最もよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 小学校の1年生、2年生ですので、各社とも親しめるような写真・絵図が工夫されて載っていると思いました。特に、進め方が身近なところから、だんだんまちに広がり、そういうところで人とつながっていくということを大事に扱っているという工夫がされているということがわかりました。

その中で東京書籍は、それぞれの場面での「学習のねらい」がわかりやすく示されているということや、季節の変化を取り扱っている。そして、校庭や公園も、伊勢原あたりに非常に身近な風景として映ったと感じました。写真や絵図も見やすく、安全対応の配慮もされていると感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に、私から意見を申し上げます。生活科につきましては、学習指導要領におきまして、具体的な活動や体験を通して、自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、東京書籍の教科書は、どうしたらいいのかなと投げかけることで、いろいろ試してみたくなる工夫がされていることに加えて、他教科との関連について、具体的なつながりの例や、関連する教科が示されているため、わかりやすくなっています。

また、就学前との円滑な接続につきまして、幼児期までに育ってほしい姿が掲載され、保護者向けの説明文もあり、家庭との連携を図りやすくなっておりますので、東京書籍の教科書がよいと考えます。

これで全員意見を述べ終わりました。ほかにご意見やご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。ないようですので、採決に入らせていただきます。生活の教科用図書につきましては、8つの発行者から選ぶこととなります。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

学校図書がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手2名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍3名、教育出版2名でございました。よって、生活で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

続きまして音楽でございしますが、2者から発行されております。



それでは重田委員から、ご意見をお願いします。

○委員【重田恵美子】 私は教育出版がいいと思いました。能、狂言、琴、雅楽なども盛り込みながら、楽器の指使いやリズムの練習や、学びの要素も取り入れながら音楽としての学びをし、日本の歌などなじみのある歌唱教材が多く、学びやすいと思いました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 教育出版、教育芸術社、どちらの教科書もよく工夫されていて、甲乙つけがたいのですが、教育出版は、伊勢原の小学校で教鞭をとられた吉田覚先生が編曲された曲が多数採用されていること、また、6年生の最後の曲が「箱根八里」で、身近な箱根の雄大な写真で教科書が締めくくられていることなどから、教育出版のほうが、伊勢原の子どもたちの音楽へのモチベーションを高めることができるのではないかと思います。

また、5年生の合奏に「ゴジラ」や「ルパン三世」のテーマが取り上げられていたり、6年生の歌唱曲として「オリンピック賛歌」が日本語と英語両方の歌詞つきで載っていたりなど、より時代に即した曲が取りあげられているように思いました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 両者とも、歌唱曲、それから器楽演奏の指導などは、それぞれ狙いを明確にして、適正に指導されていると感じました。

ただ、教育出版が、その中で、各地の音楽活動を紹介したり、音楽と世の中のつながりを大切にしているなど感じました。また、楽曲の歌詞に合わせた絵や写真などは、思いを高めるために非常に役立っているなども感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 1年生では、両者ともリズムを大切にしていますが、例えば「日の丸」という曲では、教育出版が「盛り上がりを感じて歌おう」なのに対し、教育芸術社では「音の高さに気をつけながら歌いましょう」とあり、表記の違いが見られました。教育芸術社は、各單元において、狙いや活動の手だてが示されている内容が技術的・専門的という印象です。

楽器の持ち方や鳴らし方では、教育出版は全体的に見開きで表示され、教育芸術社では、1年生ではその楽器を使用する單元ごとに、持ち方、鳴らし方が記され、工夫されていました。そういった面から、私は教育芸術社がよいと考えます。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に、私から意見を申し上げます。音楽科につきましては、学習指導要領におきまして、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽

と豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、教育出版の教科書は、低学年では身体表現や遊びの要素を取り入れた活動、中学年では思いや意図を持って表現する活動、高学年では主体的に表現に取り組む活動が設定されていることに加えて、「音のスケッチ」で音楽づくりを取り上げ、学び方の手順が子どものイラストの吹き出しでわかりやすく示されています。また、日本の風景の写真や伝統芸能、楽器などが掲載され、イメージを膨らませて歌うことができるよう工夫されておりますので、教育出版の教科書がよいと考えます。

これで全員意見を述べ終わりました。ほかにご意見、ご質問等はございますでしょうか。

ないようですので、採決に入らせていただきます。音楽の教科用図書につきましては、2つの発行者から選ぶこととなります。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いします。

それでは、教育出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手4名。

教育芸術社がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。教育出版4名、教育芸術社1名でございました。よって、音楽で使用する教科用図書は、教育出版のものと決定いたしました。

続きまして図画工作でございますが、2者から発行されております。

それでは菅原委員から、ご意見をお願いします。

○委員【菅原順子】 私は、日本文教出版がよいと思いました。各学年で必ず、日常生活や体験の中から思い出して書く単元があり、よきにつけ悪しきにつけ、自己の思いを表現して人に伝えるという、図画工作が子どもの成長に果たす基本的な役割がきちんと押さえられていると感じました。また、自閉症の子どもさんが書かれたアール・ブリュットの絵が紹介されていたり、「ひらめきポケット」というページでは、並べる、つなげる、組み合わせる、分けるといった特定の視点から眺めることによって、見なれた日常の中から非日常を発見するヒントが学年ごとに示されていたりなど、アウトプットのテクニックだけでなく、一人一人のインプットの仕方も重視されています。

振り返りも、次につなげるポジティブな問いかけになっていることなども含めて、私は日本文教出版がよいのではないかと考えます。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

続いて渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 私は日本文教出版がよいかないと思いました。美術のつながりや広がりを考えながら教科書が組み立てられているということや、子どもの活動や作品も多く載っているということ。それから、巻末の「使ってみよう 材料と用具」などでも、安全への配慮がなされていると感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

続いて永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 各単元の学習の目当てはそれぞれ3つですが、開隆堂出版は主なものが赤字となっていてわかりやすい印象です。巻末には、各用具の使い方や注意が表示されていますが、開隆堂出版のほうがより技術的で詳しい表記です。

日本文教出版の吹き出しは、作品づくりのヒントになると思います。

開隆堂出版には二次元コードが配置され、活用次第で広がりが見られそうです。

掲載の写真は、開隆堂出版は楽しそうに取り組む児童の様子、日本文教出版は作品そのものがクローズアップされている印象です。非常に甲乙つけがたいところですが、私は開隆堂出版がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 どちらも有名な作品を盛り込みながら、ものづくりのヒントにしているところがあるのですが、私は開隆堂出版がよいかと思います。

巻頭に学習の目当てがあり、図画工作で育つ力を「工夫さん」、「ひらめきさん」、「心さん」に分けてマークで表現し、好きなものを見つけて楽しむような試みがなされています。また、1年、2年の上では、材料もいろいろ、クレヨン、パステルで楽しむいろいろな方法を工夫して、紙の大きさも一定にせず、ひらめきを大切に、思い切り手のひら全体を使ったり、つくることを楽しむように心がけているように思います。

また、伸ばしたり、ちぎったり、張ったり、重ねたり、くしゃくしゃにしたり、色彩豊かな作品に触れたり、ボリュームを感じる作品に触れたり、見て、触れて、感じて、感動することが大事で、巻末にその技法の紹介もあります。形、色、方法、材料を知り、工夫する力。試したり、見つけたり、考えたり、思いついたりする力。心を開いて楽しく活動し、友達とかかわり、協力し合う力を養うことができると思います。教科書自体では楽しくできており、子どもたちにとっても、中に描かれている写真や、子どもたちが生き生きと楽しく制作している姿が写されていて、そういう楽しい時間が、その教科書を使う児童にも楽しい時間となると思います。よって、開隆堂出版がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に、私から意見を申し上げます。図画工作科につきましては、学習指導要領におきまして、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、日本文教出版の教科書は、子どもの発達の段階に合わせて、図画工作を通してさまざまな立場の人々や社会集団とかかわったり、つながったりする事例が写真等で紹介されていることに加えて、身近な作品や地域の作品を紹介するために、巻末に図画工作のつながり、広がりが見られます。また、巻末には、材料や用具の安全な扱い方や、表現や材料の多様さについて、大きな図面で示されており、児童の試す意欲を高められるよう工夫されていますので、日本文教出版の教科書がよいと考えます。

これで全員意見を述べ終わりました。ほかに、ご意見やご質問がございましたら

らお願いいたします。

よろしいでしょうか。ないようですので、採決に入らせていただきます。図画工作の教科用図書につきましては、2つの発行者から選ぶことになります。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、開隆堂出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手2名。

日本文教出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

全員の挙手が終わりました。開隆堂出版2名、日本文教出版3名でございました。よって、図画工作で使用する教科用図書は、日本文教出版のものと決定いたしました。

続きまして家庭でございしますが、2者から発行されております。

それでは渡辺委員から、ご意見をお願いします。

○委員【渡辺正美】 両者とも、学習の進め方に沿って、学習の目当ては明記されていると思います。

開隆堂出版は、学習の流れに沿った説明がより丁寧であるかなと感じました。図や写真もわかりやすいと感じました。

また、授業の特性で、いわゆる実習などを伴っていく教科ですので、教科書が大きい過ぎない、ぽんと机の上に広げて作業などがしやすいのかなと思い、AB判の開隆堂出版がよいのかなと感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 どちらも生活とのかかわりが理解できる内容となっていて、振り返りと、中学校の学習や今後の生活に向けて生かす流れの構成となっています。また、これまでの各教科との関連性も示されていました。

東京書籍は、巻末の実習の手順がわかりやすいと思いますが、全体的には開隆堂出版のほうが写真や図解が多く、見やすく、「学習のめあて」、「できたかな」とチェックで確認ができます。

両者とも二次元が活用できますが、開隆堂出版はほぼ各単元に配置され、工夫が見られました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は開隆堂出版がよいと思います。4つの視点に分かれていて、それぞれがわかりやすく、写真も大変具体的で、家庭から独立しても、自分のことは自分でできるのが当たり前になりそうな教材になっております。

「学習の目当て」、「振り返ろう」では、自分をチェックして生活に生かそうということがあります。「話し合おう」では、友達と考え、「調べよう」では、どんなことができるか工夫する力を養えると思います、開隆堂出版がよいと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 どちらもよく工夫されていて甲乙つけがたいのですが、どちらかというとな開隆堂出版がよいのではないかと思います。

全ての単元が、なぜするのだろうという問いかけから始まっていて、調理や裁縫、整理整頓を学ぶ意味を考えたり、話し合ったりする時間を設定することで、学習への動機が高まっていくのではないかと思います。

6年の最後には、持続可能な社会についての導入もあったり、「生活の中のプログラミング」と題して、ご飯とみそ汁を同時につくる手順がプログラムの提示されていたりなど、中学へ、また実生活へとつながる重要な学びができるのではないかと思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に、私から意見を申し上げます。家庭につきましては、学習指導要領におきまして、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、開隆堂出版の教科書は、家庭の学習を振り返り、新しい課題を解決するために「レッツトライ生活の課題と実践」が設定されていることに加えて、「生活の中のプログラミング」というページが設けられており、主に家電製品のプログラムで行われていることが資料として掲載されており、プログラミングの考え方を学びやすくなっております。

また、サイズがA B判であるため、実習などの際にはコンパクトで使いやすいので、開隆堂出版の教科書がよいと考えます。

これで全員意見を述べ終わりました。ほかにご意見やご質問等がございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。ないようですので、採決に入らせていただきます。家庭の教科用図書につきましては、2つの発行者から選ぶこととなります。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

開隆堂出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手5名。

全員の挙手が終わりました。開隆堂出版5名でございました。よって、家庭で使用する教科用図書は、開隆堂出版のものと決定いたしました。

続きまして保健でございますが、5者から発行されております。

それでは永井委員から、ご意見をお願いします。

○委員【永井武義】 全体的に、主体的・対話的で深い学び、話し合い活動を重視した構成になっている印象を受けました。検討委員会の中では、教科書は導入、見直し、振り返りで使用されるというお話がありましたが、大日本図書、光文書院、学研教育みらいは、単元が見開き1ページで構成されていて、とても見やすいと感じました。そして光文書院では、「広げよう、深めよう」、学研教育みらいでは「もっと知りたい、調べたい」で児童に興味・関心を持たせ、発展的な工夫がなされていると思います。

思春期の体の変化について、学研教育みらいでは、児童が悪ふざけしづらいような人体図で、イラストの描写は表現がもっともやさしく記されています。また、「どんな気持ちだったか」というコラムでは、登場する男女が心の悩みについて語っていて、思春期の気持ちに寄り添う工夫と配慮がなされていると感じました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

では重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は学研教育みらいがよいと思いました。思春期の子どもたちの心の問題、事故、けが、災害、病気、そして生活の仕方の中で、喫煙、飲食、薬物乱用の防止について意識されております。それぞれきちんと説明されているところがよいと思います。また、ページ数が少ない割に丁寧にできていると思います。目次で内容がすぐわかるようになっているところもよいと思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 それでは菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は文教社が最もよいと思いました。説明が細か過ぎず、情報量が適切で、要点がコンパクトにまとめられていると思います。

3・4年生では、規則正しい生活の例として1人の女の子、不規則な生活の例として1人の男の子の1日の過ごし方が例示されている教科書が多い中で、文教社は2者を比べるのではなく、1人の子どもが日々の生活の仕方によって調子がよくも悪くもなるということが示されていて、好感が持てました。

5・6年生の心の健康の単元では、相談することが重視され、身近な人に相談することの効果だけでなく、友達からの相談の受け方についても話し合いのテーマとなっていて、その中でLGBTについても触れられており、子どもの現状に即しているのではないかと思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

では渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 保健に関しましては、3年、4年、5年、6年と、小学生年齢の発達段階に応じて、健康や、清潔な生活とか、心の発達、病気や感染症予防、生活習慣病予防、そのほか交通安全とか、生活をしていく上で今後必要となることを、基礎的な学びとしてここで行っているということで、どの教科書会社もそのような、今後の生活に生かすような工夫がされていると感じました。

ただ、学研教育みらいは、「学習のねらい」が明記されている。それから学習の流れをわかりやすく記載していると感じました。

さらに、性教育に関して、各教科書会社が扱っているのですが、学研教育みらいは性教育に関しての系統的な取り扱いが一番よいのかなと感じました。絵図や写真も見やすく、わかりやすいと思いました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に、私から意見を申し上げます。保健につきましては、学習指導要領におきまして、体育科として、課題を見つけ、その解決に向けた学習課程を

通して心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指すとしております。

各発行者のうち、学研教育みらいの教科書は、見開き1ページに、「つかむ」から「まとめる、深める」までの1単位時間の学習が示されており、児童が学習の見通しを持ちやすい工夫がされています。加えて、喫煙や飲酒の害や、薬物乱用防止について比較的多くのページをとっています。また、体の発育・発達については、個人差や思春期への配慮が必要ですが、資料が見やすく、児童の学習の助けになりますので、学研教育みらいの教科書がよいと考えます。

これで全員意見を述べました。ほかにご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。

ないようですので、採決に入らせていただきます。保健の教科用図書につきましては、5つの発行者から選ぶこととなります。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

文教社がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

光文書院がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

学研教育みらいがよいという方は挙手をお願いします。挙手4名。

全員の挙手が終わりました。文教社1名、学研教育みらい4名でございました。よって、保健で使用する教科用図書は、学研教育みらいのものと決定いたしました。

続きまして英語でございしますが、7者から発行されております。

重田委員からご意見をお願いします。

○委員【重田恵美子】 私は開隆堂出版か東京書籍かと思ったのですが、開隆堂出版はフレーズが豊富で、音声もあり、飽きない工夫がされていると思いました。ただ、東京書籍は、ピクチャーディクショナリーという薄い冊子が別冊になっていて、これ自体が大変使いやすそうだと思います。

巻頭に目次がわかりやすくぱっと1つのワードを別の使い方で表現し、またポストカードで日本を紹介するなどの場面が多いかと思います。また、日本のすてきインタビューコーナーがあり、音声がいろいろなところで使われるようになっています。音声が入るといえるのは開隆堂出版もそうなのですが、ピクチャーディクショナリーのことでもありますので、東京書籍がいいと思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 私は東京書籍、次いで教育出版、新興出版社啓林館がよいと思いました。単語を入れかえる基本構文では、主語、述語、目的語といった文の要素が色分けや囲みなどによってわかりやすく分類されていたり、aとt h

eの使い方がレストランでの注文の場面で導入されていたりなど、将来必要となる重要な文法の基礎が、楽しい中にもさりげなく導入されているところに工夫を感じました。

文字も、ハンドライティングの文字に近いユニバーサルデザインフォントが使われています。

また、「言葉探検」というコーナーでは、日本語と英語の違いがわかりやすい例を挙げて例示されており、言語の違いと文化の違いとの相互関係に、子どもが興味を持ち、理解を広げるきっかけになると思います。

別冊のピクチャーディクショナリーは、カテゴリー別の語彙や基本表現がコンパクトにまとめられていて、子どもたちにとって楽しく、永く活用できると思います。

以上から、私は東京書籍がよいと考えます。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

では渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 各社とも、年間でおよそ10単元前後の、ユニットと呼んだりレッスンと呼んだりしますが、構成されていると思いました。

その中で、特に子どもたちに、ただ単語だけではなくて絵もついているということで、文字の説明なども各教科書会社では、巻末や途中に、子どもたちが困らないような工夫がされていると思いました。

その中で、結局、学習の流れがどの程度丁寧に解説されているかということを見た中で、私はやはり東京書籍がいいのかなと感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

では永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 私は東京書籍、続いて教育出版がよいと思いました。導入の5年生を中心に見ました。アルファベットから始まるのは学校図書と三省堂、教育出版。光村図書出版は単元とともにといった感じで、その他はあえて順序立てていない印象です。初めての教科化ということもあり、楽しく親しんでもらうことが重要であり、導入では聞く、話すに焦点を当て、次第に読み書きに入っていくほうが、苦手意識もできないと思います。各社とも、その辺りへの配慮が十分に感じられました。

東京書籍では、自分から地域、日本と広がり、日本の文化について紹介する「日本のすてき」が配置され、開隆堂出版では各教科とのかかわりが示されています。

学校図書では、多国籍化への配慮が感じられる構成で、歌が多いのも親しみやすいです。

教育出版と光村図書出版は、ゲームで関心を高める工夫が凝らされていました。

三省堂以外は、絵カードが巻末に添付され、楽しんで活用できそうです。

東京書籍には、別冊でピクチャーディクショナリーがあり、4線で書くことにも配慮がなされていました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。



それでは私から意見を申し上げます。学習指導要領において、英語を履修させることを原則とするとされております外国語科につきましては、外国語による、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指すとされております。

各発行者のうち、東京書籍の教科書は、世界の文化や日本の文化について、地域から日本へ、日本から世界へと少しずつ広げていくことができるよう工夫されております。また、他委員も指摘されておりましたが、別冊の語彙表現集「ピクチャーディクショナリー」は大変利用しやすいものでございますので、東京書籍の教科書がよいと考えます。

これで全員が意見を述べ終わりました。ほかにご意見やご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。ないようですので、採決に入らせていただきます。英語の教科用図書につきましては、7つの発行者から選ぶことになります。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手5名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍5名でございました。よって、英語で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

続きまして道徳でございますが、8者から発行されております。

では、菅原委員からご意見をお願いします。

○委員【菅原順子】 私は光文書院、次いで光村図書出版がよいと思いました。光文書院は、各読み物の見出しで、ポジティブな言葉で問いかけがなされている上、欄外に、流れに沿った設問があって、焦点化された読みができるようになっていきます。また、道徳の教科というものの捉え方として、光文書院の読み物には3つの特徴があるように思いました。1つ目は、「短所も長所」、「苦手を得意に」といったテーマや、ある国に対するイメージと実情の乖離を題材とした読み物が示すように、固定的ではない、視点をさまざまにシフトさせた多面的な見方が大切にされているということです。2つ目は、決まりを守ることについて、「マナーからルールへ、そしてマナーへ」という題名のポイ捨てについての話題や、オリンピックでのとっさのフェアプレーなどを題材として、ルールは絶対的なものではないこと、ルールを超えた臨機応変な対応が大切であることを気づかせようとしているように思います。3つ目には、読み手の子どもが感情移入しやすい、日常生活での葛藤場面が多く描かれていて、こういう子がよい子、こういう子が悪い子と決めつけるのではなく、それぞれの子どもが「心の体温計」と名づけられたメタ認知によって、自分の弱さを知り、葛藤を乗り越えるだけのストレスコントロールの力を身につけさせることが重視されていると思います。このような内容の読み物の後に、過不足のない考察がつけられていて、先生の指導のもとに、児童や学級の実態に応じた活動ができると思います。

以上から、私は光文書院がもっともよいと思えます。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

では渡辺委員、お願いします。

○委員【渡辺正美】 小学校の道徳の授業は45分間で成り立っており、45分以上ではなく45分以内で完了する必要があります。しかも、道徳のよい点は、意見を言い合ったりしながら、さらに心の中で次への発展を考える、議論するということと、もう1つは評価するということです。

この、評価ということに関しては、結局先生方が、文字として記録に残ったものなども、必ず確実にその授業の中、授業の最後にはそういう記録を子どもたちが残していくということが必要になってくるということなのです。

そうしますと、子どもたちが、読んで、内容を理解し、自分で意見をまとめて発表しながら人の意見も聞き、最後にまとめをする場面を、45分の授業の中でつくっていくということなのです。これが、実際に道徳の授業を行ってみると、読むところに時間がとられている。どの子どもたちもすらすらと読めるというわけではなくて、スムーズに読めない子どももいるわけです。そういう子どもたちのことも含めて考えていくと、どんなにすばらしい資料でも、長くては、授業の中で扱い切れないと感じました。ですから、文章量が適切であることが大切です。

文字の行数とかページ数とかを一応全部比較してみますと、学校図書、日本文教出版、光文書院が4ページぐらいで、どの学年も成り立っていると感じました。

それから、発展的資料が道徳の教科書にいっぱいあるというのは、一見いいようですが、今言った中で、メインとなる教材を授業としては扱っていくわけですので、それ以外の、あまり発展的なものがいっぱいあっても、授業としては扱えないということになるわけです。ですから、あまり発展的資料の量が多いのもどうかと思います。そんな中では、東京書籍、教育出版、光文書院が適正な量かなと感じました。

それから、それぞれの学級で子どもの実態は違います。ですから、その実態の中で、それぞれ担任の先生が自分の思いで、子どもたちに考えさせる部分を設定していく余地がより多くあるほうがいいと思います。ですから、課題、問題設定等があまり多い教科書は、私は好ましくないのではないかと考えました。

伊勢原の各学校でも、道徳の研究などを進めながら、先生方がワークシートをつくったり、学年会で、こういうことを考えさせようということを話し合ったりしながら、実際には道徳の授業を進め始めているのが現状ですので、そういうふうに考えますと、担任の先生が工夫し、そしてそのまとめも最終的に授業の最後に書かせていくということがしやすい、つまりあまり指示などが多くない教科書のほうがいだろうと考えました。

そう考えますと、東京書籍、それから教育出版、光文書院が、そういうことでは適正かなと思いました。そうしますとやはり光文書院が、教育出版もよろしいのですが、光文書院、教育出版、東京書籍、この3つの中で、やはり光文書院がいいのかなと感じました。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは永井委員、お願いします。

○委員【永井武義】 「特別の教科 道徳」については、教育出版、続いて光村図書出版、光文書院、学研教育みらいあたりがよいと感じました。

前回の採択から2年での採択となりましたが、同様の8者からの選択となりました。

問題解決型の道徳、考える道徳、議論する道徳を目指している工夫、そして考えを深め、話し合うといった課題設定が見られました。また、学習指導要領に示された目標についても、22の項目についてバランスよく配置されていると思います。

光村図書出版は一貫して、「話し合っで」、「演じて」、「読んで」、「書いて」、そこから考えようというスタンスであり、「演じて」というのが印象的でした。光文書院は読み物が充実しています。教育出版、学研教育みらいには、郷土の偉人として二宮金次郎が取り上げられていました。東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版は、各学年を通して分量が適当で、45分という授業時間を考えたとき、とても使いやすいように思えます。

教育出版は、段階的に特定の人物に焦点化した教材が多く設定されています。また、補助教材の中から、学校により、先生が教材を選択できるような配慮がありました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは重田委員、お願いします。

○委員【重田恵美子】 私は光文書院、光村図書出版がよいと思いました。光文書院は、見出しがあり、短所、長所、また多面的なことを尊重しているところなど、臨機応変な対応もあり、丁寧にできていると思うのですが、光村図書出版は、単元ずつ問題提起をし、そのポイントが示されていて、マザー・テレサを取り上げ、貧しい人の中に飛び込み、最も苦しんでいる人たちに全てを捧げること、その彼女から学ぶものは何なのかなど、問題提起がされています。それで、みんなでそのことを「考えよう・話し合おう」という意見交換の場を設けたり、それをみんなの幸せに「つなげよう」という最終的な目的があります。

あと、課題を自分のこととして考えられるように、キャラクターを登場させて工夫もしています。

いろいろな工夫がそれぞれの会社であります。私は光村図書出版がいいと思いました。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

それでは最後に、私から意見を申し上げます。「特別の教科 道徳」につきましても、学習指導要領において、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるとされております。

各発行者の教科書はそれぞれ特色がありますが、道徳科の授業は、教科書の中の各教材に含まれている道徳的価値を一方的に児童に理解させるものではなく、教材を手がかりとして、児童が道徳的価値について考え、クラスの仲間たちとの

議論などを通して、児童の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるもので、他の教科以上に教師の創意工夫が大切です。

このため、教員が自由に教材を扱うことができ、ワークシートやノートを使って授業内容を工夫できるという観点から、道徳ノートなどの別冊のないもの、小学校の1単位時間は45分ですが、教材を読んだ後に、子どもたちが考え、議論することを考慮すると、一つ一つの教材があまり長くないものが望ましいと考えます。

各発行者のうち、光文書院の教科書はこうした要件を満足しており、さらに導入で問題意識を持って学習に臨み、「まとめる」で学習内容を振り返ることで、考えの変容が実感できるように設定されています。また、コラム「みんなでやってみよう」が全学年に配置され、発達の段階に応じたグループワークが提示されているなどの工夫もされておりますので、光文書院の教科書がよいと考えます。

これで全員意見を述べ終わりました。ほかにご意見やご質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。ないようですので、採決に入らせていただきます。道徳の教科用図書につきましては、8つの発行者から選ぶこととなります。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それでは、東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

学校図書がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手1名。

日本文教出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手なし。

光文書院がよいという方は挙手をお願いします。挙手3名。

全員の挙手が終わりました。教育出版1名、光村図書出版1名、光文書院3名でございました。よって、道徳で使用する教科用図書は、光文書院のものと決定いたしました。

以上をもちまして、日程第3、議案第19号「令和2年度伊勢原市立小学校使用教科用図書の採択について」の審議を終了いたします。

----- ○ -----

日程第4 議案第20号 令和2年度伊勢原市立中学校使用教科用  
図書（「特別の教科 道徳」を除く）の  
採択について

○教育長【鍛代英雄】 日程第4、議案第20号「令和2年度伊勢原市立中学校使用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）の採択について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【石渡誠一】 それでは、議案書の35ページをごらんく

ださい。

議案第20号につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定に基づく、令和2年度伊勢原市立中学校において使用する（「特別の教科 道徳」を除く）教科用図書の採択について、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第10号の規定により提案するものです。

平成27年度に採択した、伊勢原市立中学校において使用する（「特別の教科 道徳」を除く）教科用図書については、政令で定める採択期間である4年間、毎年度種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとなっており、平成28年度から令和元年度までの4年間、同一の教科用図書を使用してまいりました。

その使用期間が終了しましたことから、ここで採択がえということになり、令和2年度より使用する教科書について採択することとなります。

しかし、令和3年度より、新学習指導要領に基づく教科書が使用されることとなるため、今回採択する教科書は、令和2年度の1年間のみの使用となります。また、今回の採択に当たりまして、平成30年度検定において新たに合格をした教科用図書がなく、基本的には前回の検定を合格した教科用図書の中から採択を行うこととなります。

については、平成27年度の調査結果をもとに、また、4年間の使用実績も含めて検討委員会にて検討を行いました。

なお、本採択につきましては、文部科学大臣から送付される目録に登載された教科用図書のうちから採択することになっております。

おめくりいただき、36ページから順に、発行者・発行数一覧、及び中学校用教科書目録。また、少し先に進みますが58ページに、現在伊勢原市の中学校で使用している教科用図書の一覧を掲載しております。

それでは、よろしくご審議をお願いいたします。

○教育長【鍛代英雄】 提案説明が終わりました。

ただいまの提案説明の中にありました、検討委員会での検討結果でございますが、議案第19号の審議の際に申し上げましたとおり、私を含め委員の皆さんは既に把握されていらっしゃると思いますので、改めてこの場では検討委員会での検討結果の報告はいたしませんので、ご了承ください。

それでは、ご意見、ご質問などがございましたらお願いいたします。

菅原委員。

○委員【菅原順子】 どの教科書もよく工夫されていると思います。中学校は、令和3年度に新指導要領の全面実施となり、来年度に改訂された教科書の採択を行うことになっているため、今回採択される教科書は令和2年度の1年間だけの使用となります。したがって、来年度1年間は、これまで使用している教科書で学習を進め、新指導要領の準備をすることがよいのではないかと考えます。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

渡辺委員、どうぞ。

○委員【渡辺正美】 私も菅原委員同様、この1年間ですので、これまでどおりの教科書を使っていくことがよいのではないかと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ほかにいかがでしょうか。

永井委員。

○委員【永井武義】 検討委員会では、現在使用している教科書は伊勢原市の生徒に不都合はないということでございました。既にほかの委員からも発言がありましたように、来年度の1年間はそのまま同じ教科書を使用して学習することが、伊勢原市の生徒にとっても教員にとっても望ましいのではないかと思います。

○教育長【鍛代英雄】 ほかにいかがでしょうか。

重田委員。

○委員【重田恵美子】 私も、今ここで教科書をかえるということは、返って混乱を招くものだと思いますので、1年間、同じ教科書でいいと思います。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 ありがとうございます。

皆様のご意見をまとめますと、どの種目の教科書につきましても、現在使用している教科書に問題はなく、同じ発行者のものを引き続き来年度も使用するほうがよいということになるかと思います。

そこで、採択の仕方についてでございますが、全種目一括して採択をすることによってよろしいでしょうか。

○委員全員 はい。

○教育長【鍛代英雄】 それでは、「特別の教科 道徳」を除く全種目につきまして、現在使用している教科用図書を採択することについて、賛成の方は挙手をお願いいたします。

○教育長及び全員 挙手。

○教育長【鍛代英雄】 挙手全員。よって、現在使用している発行者の教科用図書を引き続き採択することによって決定いたしました。

----- ○ -----

日程第5 議案第21号 令和2年度伊勢原市立中学校「特別の教科 道徳」使用教科用図書の採択について

○教育長【鍛代英雄】 日程第5、議案第21号「令和2年度伊勢原市立中学校「特別の教科 道徳」使用教科用図書の採択について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【石渡誠一】 議案書の59ページをごらんください。議案第21号につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定に基づく、令和2年度伊勢原市立中学校において使用する教科用図書の採択について、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する

規則第2条第1項第10号の規定により提案するものです。

平成30年度に採択した、伊勢原市立中学校において使用する「特別の教科 道徳」の教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条に基づき、令和元年度から令和2年度までの2年間、同一の教科用図書を使用することとなっております。

おめくりいただきまして60ページに、発行者・発行数一覧、及び61ページに現在伊勢原市の中学校において使用している教科用図書の一覧を掲載しております。

今年度は、教科用図書発行者の指定の取り消しや、教育課程の基準の変更等により、既に採択されている教科用図書が発行されないといった事案はございません。

よって、昨年度と同一の教科書を採択したいとするものです。

以上でございます。

○教育長【鍛代英雄】 提案説明が終わりました。ご意見やご質問などがございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。特にないようですので、採決に入らせていただきます。

議案第21号「令和2年度伊勢原市立中学校「特別の教科 道徳」使用教科用図書の採択について」、賛成の方は挙手をお願いいたします。

○教育長及び全委員 挙手。

○教育長【鍛代英雄】 挙手全員。よって本案は原案どおり可決決定いたしました。

----- ○ -----

日程第6 議案第22号 令和2年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について

○教育長【鍛代英雄】 日程第6、議案第22号「令和2年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【石渡誠一】 それでは議案書の63ページをごらんください。議案第22号につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項、及び第14条、並びに学校教育法附則第9条の規定に基づく、令和2年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第10号の規定により提案するものです。

おめくりいただきまして64ページから67ページにかけて、教科用図書一覧を掲載しております。

令和2年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書に

については、各学校において、児童生徒一人一人のニーズに合わせた教科用図書を使用するため、学校教育法附則第9条の規定に基づき、文部科学大臣の検定を経た教科用図書以外の一般図書、及び文部科学省が著作の名義を有する教科用図書の中から、教科用図書として選定しました。

よって、これら選定した教科用図書について採択したいというものです。

なお、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条第1項の規定により、文部科学大臣の検定を経た教科用図書以外の図書を選定する場合は、1年ごとの採択となります。

以上でございます。

○教育長【鍛代英雄】 提案説明が終わりました。ご意見やご質問などがございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。特にないようですので、採決に入らせていただきます。

議案第22号「令和2年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について」、賛成の方は挙手をお願いいたします。

○教育長及び全委員 挙手。

○教育長【鍛代英雄】 挙手全員。よって本案は原案のとおり可決決定いたしました。

----- ○ -----

#### その他事項

○教育長【鍛代英雄】 続きまして、その他ということですが、委員の皆様から何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。では、事務局から何かありますか。

特にないようですので、最後に来月の定例会の日程についてお願いします。

○教育総務課長【古清水千多歌】 教育委員会8月定例会につきましては、8月27日、火曜日、午前9時30分から、市役所3階第3委員会室での開催となります。

以上です。

○教育長【鍛代英雄】 それでは、本日の教育委員会議はこれをもって閉会といたします。どうもありがとうございました。

午前11時24分 閉会

----- ○ -----

<配付資料>

□議案